

- 応募方法
応募用紙に必要事項をご記入のうえ、郵送、FAX、メールのいずれかでお申込みください。
※メールでお申込みの場合は、件名を「音楽がヒラク未来参加申込み」としてお送りください。受付後、こちらから確認メールを返信いたします。

- 応募締切
5月15日(月)必着
※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
結果は、10日前までに郵送にてお知らせいたします。

● お申込み
北九州芸術劇場「音楽がヒラク未来」係
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11
TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633
MAIL kitageki@kicpac.org

- お問い合わせ (担当: 大橋、西中)
TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633
MAIL kitageki@kicpac.org



【新幹線】新幹線小倉駅より西小倉駅へ在来線で2分、西小倉駅より徒歩3分
【空 港】北九州空港よりエアポートバスで小倉駅まで約40分
【J R】小倉駅より徒歩10分、西小倉駅より徒歩3分
【バ ス】室町・リバーウォーク(リバーウォーク北九州前)下車
【乗用車】北九州都市高速、小倉駅北ランプから車で5分
※専用の駐車場はございません。リバーウォーク北九州(30分150円)ほか周辺の駐車場をご利用ください。

M 音楽がヒラク未来 **応募用紙**

※枠内に収まるようにご記入ください。※コピー可。

原則として2日間通してのご参加をお願いします。
やむを得ない事情で、2日間のご参加が難しい方は、下記応募動機欄にその理由及び参加希望日を記載してご応募ください。

| | | | |
|--|--|-------|--------------------------------|
| フリガナ | | ■性別 | ■年齢 |
| ■氏名 | | 男 ・ 女 | |
| ■住所 〒 | | | |
| ■所属先 (文化施設等にお勤めの方は施設名をお書きください) | | | |
| ■職種 | | ■勤続年数 | |
| ■電話番号 | | ■携帯電話 | |
| ■MAIL | | | |
| ■応募動機 | | | |
| ご記入いただいた個人情報は、本講座のために使用いたします。また、今後の講座のご案内などを送付させていただく場合がございます。今後のご案内の希望をされない場合は、右記の欄にチェックをお付けください。 | | | <input type="checkbox"/> 希望しない |

全国4館連携フォーラム事業

M
音楽がヒラク未来

Music shaping our Future

～音楽で越境する～
@北九州芸術劇場

参加者募集

2017年6/14(水)～15(木)
北九州芸術劇場 小劇場・創造工房

主催: (公財)北九州市芸術文化振興財団 共催: 北九州市
連携館: 札幌コンサートホール Kitara、東京文化会館、上田市交流文化芸術センター・サントミュージゼ、北九州芸術劇場

芸術監督・監修: 仲道郁代

助成: (一財)地域創造、平成29年度文化庁劇場・音楽堂活性化事業
企画: 北九州芸術劇場

札幌コンサートホール
Kitara



北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER



○プログラム○

■日程: 2017年 6月14日(金)～15日(土) 2日間
■対象: 公共ホール職員、アーティスト、地方公共団体文化行政担当者、学生など

1日目: 2017年 6月14日(金) 12:45～18:15 会場: 北九州芸術劇場 小劇場

12:45▶13:15 ■オリエンテーション

13:15 ▶ 14:15 ■プログラム① 講演 「“聴く”は越境のカギ」

講師: 仲道郁代 進行: 津村卓・小澤櫻作
聴くことの意味、聴くことが何をもたらすのかを考えます。

14:30 ▶ 16:30 ■プログラム② ワークショップ体験 「音と身体の泉から」

講師: 仲道郁代・セレノグラフィカ
音楽とダンスのコラボワークショップの体験を通して、芸術が越境することにより生まれる可能性を考えます。

16:45 ▶ 18:15 ■プログラム③ 講演 「芸術と社会の越境性とは」

講師: 吉本光宏
社会における芸術の役割について、さまざまな事例をもとに考えます。

2日目: 2017年 6月15日(土) 10:00～18:30 会場: 北九州芸術劇場 小劇場(プログラム⑥は創造工房)

10:00 ▶ 11:30 ■プログラム④ パネルディスカッション 「音楽と他ジャンルの越境にかかる事例紹介」

講師: 音楽×ダンス作品: 中村透・セレノグラフィカ 音楽×演劇作品: 仲道郁代・内藤裕敬
進行: 津村卓
音楽×ダンス、音楽×演劇のそれぞれの作品を北九州の事例をもとに紹介します。

12:30 ▶ 14:30 ■プログラム⑤ プレゼンテーション 「アーティストによるプレゼンテーション」

プレゼンアーティスト: 有門正太郎(演出家・俳優)・山本朝子(ピアニスト)
解説: 仲道郁代・内藤裕敬
北九州の演劇人とピアニストが越境をテーマとしたプレゼンを行います。プレゼン後は内容を解説します。芸術の越境はどんなことをもたらすのか一緒に考えます。

14:45 ▶ 16:45 ■プログラム⑥ グループディスカッション 「芸術を越境させよう」

ファシリテーター: 中村透・内藤裕敬・吉本光宏・津村卓・小澤櫻作
2日間のプログラムを受け、今後具体的に行動するためには何が必要なのか、グループに分かれて話し合い発表します。

17:30 ▶ 18:30 ■プログラム⑦ ～コンサート～

2日間に渡って行われる「音楽がヒラク未来@北九州芸術劇場」の締めくくりには、スペシャルコンサートを開催します。
出演: 仲道郁代(ピアノ)、セレノグラフィカ(ダンス)
場所: 北九州芸術劇場 小劇場

コンサートののみのご来場はできませんので、ご了承ください。

*曲目(予定)・英雄ポロネーズ/ショパン
・ルーマニア民族舞曲/バルトーク ほか
*演奏曲目・曲順は変更になる可能性があります。予めご了承ください。



© Kiyotaka Saito photo: Ai Hirano

ご参加、ご応募、お待ちいたしております。お気軽にお問い合わせください。

聴くことから始めよう

私たちは古来、「聴く」という素晴らしい力を持っています。自然の音を聴き、気配を聴く。自分の心に耳を傾け、他者の心に耳をすませます。「聴く」ということは、心模様を思いを巡らせ、その機微を感じ取り、言葉にならないようなものを想像することなのだと思います。人と人は、聴こうとする行為なしに、わかり合うことも、つながることも、できないのかもしれない。社会が揺れ動き、変わっていきこうとする今、漠然とした不安に耳をふさぐのではなく、耳を開いて聴くことの大切さを、改めて見つめてみたい――。

音楽には、生きるという不変の営みにおける喜びや悲しみ、恐れ、驚き、祈り、願いが内包され、人はそれを聴いてきました。特にクラシック音楽は、長い歴史によって凝縮した人生の真理を孕み、耳を傾けること、想像すること、考えることを人に課してくれるのです。

現代の社会において音楽が果たしうる大きな可能性がここにあるのではないかと。その可能性を模索し、社会へと役立てることに、全国の4つの会館が取り組みます。
●音楽は「学び」の現場で子どもたちに何をもたらすことができるのか(札幌コンサートホールKitara)
●音楽の力を伝え、広める人材をどのように「育成」すべきか(東京文化会館)
●音楽は「地域社会」にどのような活力を創出できるのか(上田市交流文化センター[サントミュージゼ])
●音楽が「越境」することでどのような広がりが生み出されるのか(北九州芸術劇場)

音楽がヒラク未来。聴くことから始まる未来を、私は信じています。

仲道 郁代



© Kiyotaka Saito

仲道 郁代
【芸術監督・監修】

人気実力ともに日本を代表するピアニスト。1987年のデビュー以後、全国各地で数多くのリサイタルを開催するほか、多数のCDをリリース。1996年からスタートした「仲道郁代の音楽学校」以来度々、音楽と演劇との越境による作品を劇作家・内藤裕敬氏とともに生み出してきた。この秋には内藤氏とのコラボレーション作品「ロマン派症候群」が北九州芸術劇場はじめ全国7都市にて上演予定。全国の小学校でのアウトリーチの実施やフォーラムの開催など音楽の可能性を社会に還元するための研究・活動も精力的に行っている。著書に『ピアニストはおもしろい』(春秋社)ほか。一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授。http://www.ikyuo-nakamichi.com



セレノグラフィカ
【岡地茉歩・阿比留修一】
【ダンサー・振付家】

関西を拠点に国内外、屋内外を問わず幅広く活動を展開する結成20年のダンスカンパニー。多様な解釈を誘発する不思議で愉快な作風と、緻密な身体操作が持ち味。岡地茉歩(TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005「次代を担う振付家賞」[グランプリ]受賞)は「踊るぬいぐるみ」、阿比留修一(平成8年度大阪府芸術劇場奨励新人認定)は「かかとの無い男」とあだ名され、ヨーロッパ、韓国、オーストラリアなど国外でも作品を発表。近年は、あらゆる世代の人たちにダンスを届けるべく全国各地へ遠征、350を超える教育機関へのアウトリーチも行い「身体と心に届くダンス」を生み出し続けている。(一財)地域創造公共ホール現代ダンス活性化事業及び同支援事業登録アーティスト。http://selenographica.net/



内藤 裕敬
【南河内万歳一座・座長】

1959年栃木県生まれ。南河内万歳一座・座長。高校の時に状況劇場『蛇姫様』(作・演出/唐十郎)を見て芝居の道へ。1979年、大阪芸術大学(舞台芸術学科)に入学。4年

間、秋浜悟史教授(劇作家・演出家)に師事。その間、「リアリズムにおけるインテリの仕方」を追求。1980年、南河内万歳一座を「蛇姫様」で旗揚げ。以降、全作品の作・演出を手がける。現代的演劇の基礎を土台とし、常に現代を俯瞰した作品には定評があり、兵庫県立ピッコロ劇団や世界的ピアニスト・仲道郁代との共同企画など、劇団外での作・演出も多数。2000年読売演劇大賞・優秀演出家賞受賞。著作に「内藤裕敬処女戯曲集劇風録其之壱」「青木さん家の奥さん」がある。



中村 透
【沖縄県南城市文化センター・シュガーホール前芸術監督】

作曲家・音楽教育家・芸術文化学博士。琉球大学名誉教授。沖縄県南城市文化センター・シュガーホール前芸術監督。沖縄文化、沖縄伝統音楽財を題材としたオペラ・管弦楽・合唱曲・室内楽等の創造音楽等作曲し、その多くが全国レベルで出版・レコーディング・上演されてきた。芸術文化学分野では、一貫して芸術家と市民の協働による音楽創造という視点から、沖縄の地域社会、全国の公共文化ホールの文化政策・施策の在り方を提言し、その諸実践を支援しつつ理論化してきた。1994～2006年、佐敷町文化センター・シュガーホール運営審議委員と芸術アドバイザーを務め、同ホールの文化事業を全国的な公立文化ホールの一モデルへと導いた。同ホールは2006年に地域創造大賞・総務大臣を受賞した。



津村 卓
【北九州芸術劇場 顧問、上田市交流文化芸術センター館長】

1985年扇町ミュージアムスクエアを企画、プロデューサー。1987年A I・HALL(伊丹市立演劇ホール)チーフプロデューサー。1995年より一般財団法人地域創造プロデューサー。1997年びわ湖ホールプロデューサー、2003年より北九州芸術劇場チーフプロデューサー、2008年より館長を兼務、2015年より顧問。東京都文化施設指定管理者評価委員ほか。2015年より長野県上田市交流文化芸術センター館長。



吉本 光宏
【ニッセイ基礎研究所 研究理事】

1958年徳島県生まれ。早稲田大学大学院修了。文化審議会文化政策部会委員、文化庁2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会座長、東京芸術文化評議会評議員/文化プログラム検討部会会長などを歴任。東京オペラシティや東京国際フォーラム等の文化施設開発やアートワーク計画のコンサルタントとして活躍する他、文化政策、創造都市、オリンピック文化プログラム等の調査研究に取り組み。著書に「文化からの復興」(共著)など。



小澤 櫻作
【上田市交流文化芸術センター音楽プロデューサー・(公財)北九州芸術文化振興財団音楽事業アドバイザー】

上田市交流文化芸術センター・プロデューサー、(公財)北九州芸術文化振興財団・音楽事業アドバイザー、地域創造・公共ホール音楽活性化事業チーフコーディネーター。滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、文化庁在外派遣研修員(ウィーン国立歌劇場)、地域創造・ディレクター、アフィニス文化財団・事業部部長を経て、2013年から現職。